

北海道議会議員
Go forward 北海道 たけだ浩光 道政通信 ひろみつ

所属会派：民主・道民連合

住みやすい『西区』、そして『北海道』をめざします！

発行：たけだ浩光政務事務所 〒063-0811 札幌市西区琴似1条7丁目1-35 ☎011-624-8030 FAX 011-624-8031

2026 第2回定例道議会 6/16～7/3 知事！行政サービスの公平性は？

第2回補正予算	一般会計（千円）	特別会計（千円）	合計（千円）
今年度既計上額	3,168,109,306	1,037,728,398	4,205,837,704
今回冒頭・追加補正額	7,854,410	0	7,854,410
総 額	3,175,963,716	1,037,728,398	4,213,692,114

第2回定例道議会は、6/16（火）に開会し、補正予算（冒頭20億8,898万円及び追加57億6,542万円）を可決し、一般会計総額3兆1,759億6,371万円を計上し上記記載のとおりとなりました。この中で、知事総括において、特に追加補正予算について、当面の物価・エネルギー高の影響緩和に向けた支援として、重点支援地方交付金の活用でLPガス・特別高圧電力利用者への支援が提示されました。

しかし、この交付金は道が主体的に判断するものであるにもかかわらず、今回でLPガス支援が6回目、特別高圧電力支援が7回目となり、同じ対象への支援が繰り返されている。他に支援の対象とならない方々や事業者も多く存在することから、なぜ繰り返すのか**行政サービスの公平性**の認識を質しました。知事は、6回、7回に至った考え方には一切答えず、再質問、再再質問においても「国と道の政策を組み合わせることで、特定の対象者ではなく、幅広い対象者の方々に支援をお届けできる」との回答を繰り返すだけで、質問の趣旨に答えることはありませんでした。不誠実としか言いようがありません。

第2回定例道議会 6/29（月）予算特別委員会（経済部所管） ＜質問者：たけだ浩光＞



＜宇宙関連産業等の振興について＞

1 北海道の宇宙関連産業政策について

宇宙産業振興政策が、世界的にも、日本的にも推進されている中、北海道大樹町でもインターステラテクノロジズ社などが宇宙事業を進めている。そこで、道の宇宙関連産業の位置づけと政策の推進状況について伺う。

【産業振興課長】 道の総合計画において、宇宙産業を今後成長が見込まれる産業と位置づけている。

国が、日本成長戦略の一つに宇宙を位置づけている動きを、本道の宇宙産業の取組を加速する好機と受け止め、各般の施策を進めているところ。

政府が、AI・半導体などの戦略分野、17分野（航空宇宙分野含む）に対し、2040年度までに370兆円超えの投資計画をまとめている。道もしっかりと各般の施策を進めていただきたい。

2 企業支援について・・・（1）これまでの企業支援について

道は、今年度「宇宙関連産業振興事業費」として1,837万円を予算化しているが、これまでの北海道における宇宙関連企業支援の推移とその成果について伺う。

【産業振興課長】 産官学による推進体制を2018年度に立上げ、宇宙ビジネスのセミナー、情報提供、道内

道外調査 in 和歌山

2026年5月25日（月）～27日（水）
宇宙産業から観光へ⇒町興し

【調査項目1】 「串本町役場及び宇宙ふれあいホール Sora Miru」

串本町は、本州最南端で人口約1万5000人強だが人口減少や高齢化が課題である。しかし、観光政策やロケット産業振興などで年間200万人が観光で訪れる町となった。スペースワンのロケット「カイロス」は3度の失敗しつつも県からの30億円の融資（単独費）が講じられている。紀伊を拠点とするメリットは、部品や燃料などを陸送できること。でも何よりも国・県・市町村が連携してロケット産業への理解・機運が醸成されていることで、スペースワン(株)へ6年間で国から200億円の補助があるという。



「宇宙ふれあいホール Sora Miru」では、展示や疑似体験など体感で学べる有意義な施設である。道内でも大樹町の政策依存だけでなく、道政の積極的支援体制の必要性を強く感じた。

【調査項目2】 「和歌山県立串本古座高等学校」

2024年、魅力ある学校づくりに向けて、「分離探求コース」「宇宙探求コース」「地域探求コース」を設定し、県教委の承認を得て各クラス20名

程度の少人数学級を実践している。「宇宙探求コース」は、「科学への興味・関心や学ぶ意欲を高め、チャレンジ精神を持ち、自己の進路を積極的に切り開く人材を育成すること」をねらいとし、普通の授業に加え、宇宙授業、企業や大学等の研究機関と連携や多くの教授や専門家から授業を受けている。そのため、ロケット関連企業からも即戦力としての求人が寄せられている。

北海道もこのような事例を参考に、人材確保に取り組むべきと思う。ちなみに、串本古座高校の学生は、宇宙飛行士の試験にもチャレンジしている。西の「串本古座高校」、東の「大樹高校」とするために！

【調査項目3】 「和歌山県議会・県庁」 ＊本州最南端の地、和歌山県の概要と県議会

・面積：4,700㎢ ・30市町村で構成 ・人口：87万人程 ・議員定数42名

スペースワン(株)が2018年7月に発足し、2018年11月にわかやま版PFI 32億円無利子融資（県単独予算）決定する。その後、スペースワン社、和歌山県、串本町、教育委員会が連携・協定していく。

和歌山県総合計画において、今後5年の主要政策に宇宙産業の振興、産業人材教育を位置づけている。

さらに、県が民間ロケット打ち上げの万全サポートを行っており、知事自らの思いを公式Facebookで語っている。地元有志のコミュニティも立ち上がっておりオール和歌山の応援体制ができあがっている。

北海道の大樹町も、知事の主体的判断と行動力により、北海道の観光と活性化へ繋げる大きなチャンスに間違いのないと思う。魅力あふれる限りない可能性を秘めた北海道のために、是非期待したい。



たけだ浩光プロフィール

【すまい】 西区西野（在53年）
1960年 江別市生まれ
その後、すぐ札幌へ
1979年 北海道立札幌西高等学校 卒業
1980年 北海道大学水産学部 中退
1985年 北海道大学医学部附属
診療放射線技師学校 卒業
1985年 札幌医科大学附属病院勤務
2019年 北海道議会議員 初当選
2023年 北海道議会議員 二期目当選

お詫び：今回予定の、「シリーズ企画第4弾⑤」は紙面の都合で延期となることをお詫びいたします。

〒063-0811
札幌市西区琴似1条7丁目1-35 さんばちビル2階

TEL:(011)624-8030 FAX:(011)624-8031
e-mail : info@takeda-hiromitsu.com



たけだ浩光オフィシャルWebサイト
オフィシャルWebサイトで道政通信のバックナンバーがご覧になれます
たけだ浩光 検索

市場規模、ベンチャー投資、打ち上げコストや人材不足など課題も多いが、今後道は宇宙関連産業振興に、どう取り組むのか伺う。

【経済部長】今後、国の宇宙産業市場の拡大方針を踏まえ、道の官民連携で効果的に活用し、ビジネス機会の創出・拡大や人材育成・確保・関連企業の誘致等、宇宙産業の振興に向け取り組む。

是非、進めてもらいたい。和歌山県では、知事のリーダーシップのもと産業振興と教育、人材育成を並行して、オール和歌山で取り組んでいる。是非、北海道も知事のリーダーシップのもと、宇宙産業振興に取り組むことを願います。

第2回定例道議会 6/30（火）予算特別委員会（教育所管） <質問者：たけだ浩光>

<道立高校の魅力向上について>

1 道立高校の魅力向上プロジェクトについて

今年度から高校授業料無償化により、公立から私立化の動きが強まる中、道立高校にとっては「選ばれるための改革」が重要となっている。道教委は「道立高校の魅力向上プロジェクト事業費」を約3,000万円計上しているが、その具体的内容と現在進行中の事例があれば伺う。

【高校改革推進室長】本事業は、生徒に多様な学習体験の機会を提供する道立高校間留学制度の創設、多様な学習ニーズに対応するための私立通信高校との連携強化、高校や学科の特色を検索できるウェブサイトの開設などに取り組んでいる。

2 大樹高校について・・・（1）大樹高校と宇宙産業との関わりについて

現在、大樹町ではインターステラテクノロジズ社がロケット打ち上げに成功し、次の超小型衛星ロケットZEROの打ち上げ成功に期待している。そこで、「人材不足」の課題に対して大樹高校の役割が大きいと考える。大樹高校には、道内唯一の地域研究科が設置され宇宙教育が実践されている。こうした取り組みの成果について伺う。

【高校改革推進室長】宇宙に関する学習や商業・観光を考える学習が、今後の進路選択や社会生活に役立つと感じた生徒や課題解決に向け、主体的に取り組む生徒の増加が成果につながっている。

（2）宇宙産業次世代人材の育成について

先日、訪問した和歌山県串本町と串本古座高校では、3つのコース分けや少人数学級を実践し、企業や大学研究機関と連携するなど専門家からの授業を受けている。大樹高校も、次世代人材育成のためにも、もう一段特色アップの取り組みをしてはと思うが見解を伺う。

【高校改革推進室長】大樹高校では、JAXAをはじめ室工大や地元企業と連携した宇宙関連の学習などに取り組んでいるが、教育活動の一層の充実に努めている。

（3）専門人材の採用について

串本古座高校が先進的な取り組みを可能にしたのは、まさに知事の発信力、強いリーダーシップでした。「元JAXA職員」を県職員として採用し、県内の小中学校にまで「出張授業」を展開し「宇宙授業」を展開している。道教委として、専門人材採用による人材育成に対する見解を伺う。

【高校改革推進担当局長】大樹高校では、JAXAや宇宙関連企業の方を講師に招いた授業、専門家を講師とした講義や実習など行っている。今後とも、専門人材の協力を得ながら人材育成に努める。

【意見】やはり、元JAXA職員の教員採用と講師で招くのととは全く違うと考える。その成果は、串本古座高校には、県域外入学者が多いことに現れている。大樹高校もすぐに同様にというわけではないが、射場を持つ町の高校の優位性を活かす努力を、是非行うことを強く求めておく。

3 今後の進め方について

今や高校は、選ぶ時代です。道教委は道立高校の魅力向上に、今後どう取り組むか見解を伺う。

【学校教育監】少子化や高校授業料無償化に伴う変化への対応が必要と認識している。知事部局や地域と一層連携しながら、「道外入学者の受け入れ拡大実証事業」など取り組みながら、生徒から選ばれる高校づくりに取り組む。

【意見】今の和歌山県知事は、もと教育長ということもあり、思い入れが強いのかも。知事部局との連携しながら次世代の人材育成に取り組んで欲しい。県域外学生を求めることも含め、努力をしていただくことを願います。



企業の取組紹介、更には近年は宇宙分野への参入促進に向けたマッチングや販路拡大に向け道外展示会の支援など行っている。大樹町を拠点に、人工衛星打ち上げをめざすなどエンジン開発や人工衛星部品の製造企業など宇宙分野への参入の動きもあり、宇宙ビジネスは拡大傾向である。

	北海道大樹町ロケット	液体燃料➡部品100万個程度	打ち上げ事業が中心に見えるが、部品関係製造業が重要となってくる。
	和歌山県串本町カイロス	固体燃料➡部品30万個程度	

共有できる部分を共有し、より安く飛ばせる部品を調達できる企業が出ることが望ましい。道内の中小企業、企業支援に力を入れていただきたい。

（2）ロケット開発支援について

大樹町のインターステラテクノロジズ社が、観測ロケットMOMOの打ち上げに成功し、現在は次世代ロケットZEROを開発している。文科省が、すでに最大73億7,000万円の交付決定したと聞くと、道はどのような支援等を行ってきているか伺う。

【産業振興課長】安全確保のための説明会、漁業団体との連絡調整、ロケット事業説明会や同社と共同で道外展示会への出展・PRを行い、また、本社工場建設に伴う設備投資支援を行っている。国への支援の拡充も要望している。

3 打ち上げ事業について・・・（1）ロケット打ち上げにおける道の関与について

ロケットの打ち上げには、道内外から多くの見学者が来ることが予想される。ZERO初号機打ち上げに関して、道も積極的に事業に関与すべきと考えるが、見解を伺う。

【産業振興課長】打ち上げを行う際に、事前説明や、連絡調整や関係機関会議など行い、地域の理解を得ることが重要と考える。町や事業者と連携し、安全確保に向けて取り組む。

（2）観光対策について

和歌山県串本町では、スペースワン社がカイロスというロケットを打ち上げてから、未だ未成功ではあるが、観光客が200万人まで増加したと町長から伺った。道も、事業に伴う観光振興を視野に入れた対策に備えるべきと考えるが、見解を伺う。

【産業振興局長】大樹町をはじめ十勝管内を中心に、宿泊や飲食、交通などの面で経済効果が期待される。引き続き、町や事業者と連携し、地域の活性化につながるよう取り組んでまいる。

【再質】インターステラテクノロジズ社は、支援を受ける国から2027年度までのZERO初号機打ち上げを求められている。見学場所や安全性を考え、その準備なども必要であり、観光対策も含め道の対策を再度伺う。

【産業振興局長】見学場所については、ロケット性能により禁止区域が決まると承知している。町によると、同社の開発状況を踏まえ今後検討してゆくとのこと。

会場設営や駐車場など準備は大がかりで大変だと思うが、しっかりと多くの来道者に対する観光対策も行っていたきたい。

4 人材育成について・・・（1）人材育成の推進について

宇宙産業の振興には、人材育成も重要だ。道は、その人材育成をどう進めてきたのか伺う。

【産業振興課長】企業の認知度が低く、事業内容が知られていないという課題がある。道では、理解促進のためのセミナーや道内宇宙関連企業に関する情報発信など、求職者や学生を対象に企業説明会の開催などに取り組んできた。

（2）次世代人材の育成について

高校生や大学生が関心を持ち、本道の宇宙関連企業で働くことへ繋げることが重要と考えるが、道の次世代の人材育成・確保について、どのように取り組むのか考えを伺う。

【産業振興局長】これまで、高校生を対象とした出前授業、大学生を対象とした宇宙関連企業説明会や就業体験などの取り組みを実施してきた。今後とも様々な取り組みを通じて若い世代の理解や関心を深められるよう取り組んでまいる。

【指摘】次世代人材の育成こそ重要な資源と考える。和歌山県串本古座高校では、宇宙探求コースをつくり人材育成をやっている。非常に重要なことと考える。それを念頭に、道教委とも連携し、是非とも宇宙産業振興に取り組んでいただきたいことを指摘させてもらう。

5 今後の対応について